

# 生成 AI とリベラルアーツ

2024.12.20

九州産業大学 鶴田和寛

近年、生成的人工知能(以下、生成 AI)の急速な発展は、教育や社会構造に多大な変革をもたらしつつある。とりわけ大学教育においては、リベラルアーツの視点から生成 AI の意義と活用法を模索することが喫緊の課題となっている。本稿では、リベラルアーツの特徴および生成 AI の基盤的概念を整理し、それらが教育および労働形態に及ぼす影響について論じる。

リベラルアーツは、幅広い教養、批判的思考力、倫理観、創造性の涵養を目的とし、短期的な職業技能への直結性は必ずしも高くないものの、長期的には個人の成長や社会の発展に貢献し得る。一方、実学教育は即時的な職業技能の習得に重点を置き、実務能力に優れた人材の育成をめざす。両者の理念を統合することで、バランスの取れた教育モデルが構築されうるのは、福沢諭吉『学問ノススメ』が提示するように、実学と幅広い教養・倫理観を兼ね備えた教育理念が現代的文脈において再評価されていることとも合致する。

生成 AI は、教育の質および効率性を向上させる潜在力を有している。生成 AI は特定領域に特化した高度な機能を発揮する一方、未だ「答えのない問い」への挑戦や新規価値創出に必要とされる人間的知性には到達していない。このため、課題発見や目標設定、結果評価、新価値創造といった本質的な人間的活動は依然として人間に委ねられるべきである。

教育分野において、生成 AI をツールとして活用することは、従来の知識伝達型ティーチングから創造性重視のコーチング型指導への転換を可能にする。また、学習者個々の潜在能力を最大限に引き出すパーソナライズド学習を促進し得る。一方で、倫理観、共感性、感性など、人間固有の特質の涵養も不可欠であり、その重要性は今後ますます強調されるであろう。

生成 AI による影響は教育現場にとどまらず、社会全般の働き方や組織運営にも変革をもたらしている。デジタルトランスフォーメーション(DX)は AI や IoT の活用を通じて、業務プロセスの効率化、製品・サービスの革新、組織文化の刷新を促進し、競争優位性を獲得する手段となりつつある。具体的には、ルーティン業務の自動化による労働時間削減、創造的業務へのシフト、リモートワークの普及、生産性向上が顕著な例として挙げられる。しかし、同時に職種の再定義や一部職業の消失、格差拡大などの社会的課題が生じており、これらへの対応策が求められる。

こうした社会変容の中、人間が有する創造性、感性、共感能力を活用し、新たな付加価値を創出する必要性が高まっている。例えば、直観的体感力、知恵の体得力、コミュニケーション力、ホスピタリティ、マネジメント、リーダーシップといった能力は、今後の社会において特に重要視される。また、生成 AI は非言語的コミュニケーションの補助機能を提供し得るものの、人間固有の共感や感性は依然として代替不可能である。そのため、人間と AI の役割分担を明確化し、それぞれの強みを最大限に活かす戦略的思考が求められる。

総じて、AI 社会における教育と労働の未来は、技術革新の恩恵を享受しつつ、人間特有の価値をいかに顕在化させるかにかかっている。リベラルアーツを基盤に据え、生成 AI を活用しながら倫理観や創造性の育成を図る教育を推進することは、変化の激しい社会に適応し持続的な発展を遂げる上での鍵となる。本稿が、AI 社会における人間と技術の新たな共存モデルを探索する一助となれば幸いである。

以上